Akita University

研究紀要発刊にあたって

校長　藤井慶博

今年度「新しい時代で学び続ける児童生徒を育てる　～「生涯学習力」を高める授業づくりを通して～」というテーマを設定して研究を進めてきました。これまで、平成 31 年度の「児童生徒の生涯学習力を高める教育課程の編成」というテーマを出発点とし、「生涯学習力」を「主体的にヒト、モノ、コトに関わり、生涯にわたって学びに向かい成長しようとする力」と定義するとともに、生涯学習力を高めるために必要な要素の選定や教育課程の見直しを進めるなど、枠組み作りから授業づくりへと焦点化してきた４年間ということになります。

令和４年度の研究では、学校の教育活動全体を通して児童生徒の「生涯学習力」を高めるための授業づくりのポイントを検討し、「わかはとモデル」としてまとめました。「わかはとモデル」は「人と関わる」「情報を集める」「試す」「自分を知る」といった４つの要素と、その基盤として「夢中」「好奇心」を加えたものです。このモデルを活用しながら、小学部・中学部・高等部がそれぞれ授業を構想し、実践・評価を繰り返してまいりました。共同研究者としてご指導いただきました秋田県総合教育センター北島英樹先生、能代市教育委員会　加賀谷勝先生、秋田県教育庁中央教育事務所由利出張所　髙橋基裕先生、秋田大学教育文化学部　武田篤先生、鈴木徹先生、谷村佳則先生、前原和明先生など多くの先生方にお世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、本年は第33回日本教育大学協会全国特別支援教育部門合同研究集会を本校主管で開催させていただき、第１日目（11月18日）には、本校の研究テーマに沿って、授業公開、研究報告、授業研究会を行うことができました。全国からご参会の方々から多くのご指導・ご助言を得る機会となり、以後の研究に大きな示唆を得ることができました。改めまして感謝申し上げます。

さて、この４年間を振り返ると、令和時代への突入とともに、世界は新型コロナウイルス感染症といった未曾有の危機に瀕し、これまでの生活を大幅に見直すことを余儀なくされました。予測困難なうえに刻々と状況が変化し、ストレスの大きい環境下ではありましたが、感染防止のための行動様式を学んだり、制約が大きい中でも人としての豊かな暮らしを模索・工夫したりと、しなやかにかつ強かに生き抜く力が求められた日々でありました。コロナ禍も生涯学習力を高めるための試金石であったように私自身には思えてなりません。

末筆になりますが、私は秋田大学教育文化学部の教員として、「秋田大学における生涯学習モデル事業」に一部かかわっております。年度当初、秋田県内の特別支援学校卒業者を対象に参加者を募集しているのですが、予定人数を大幅に下回っているという現状があります。本校において「生涯学習力を高める」研究テーマで学んでいった卒業生の方々の参加も捗々しくありません。コロナ禍の影響に加え、開催日時やオンラインといった学習環境による要因も考えられますが、本校で取り組んできた「生涯学習力を高める」といったテーマが、卒業生の方々の学校卒業後も学び続ける楽しさや意欲を喚起できていたのだろうかと気になっております。今後検証すべき課題として記しておきます。